

第 26 卷 PDF 読本



鉄道つたし歩き
ごだわり

吾妻線（渋川～大前）

飯山線（越後川口～豊野）

2024年9月8日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 吾妻線（渋川～大前）・・・5

第2章 飯山線（越後川口～豊野）・・・・・・26

吾妻線（渋川～大前）：55.3 km

飯山線（越後川口～豊野）：96.7 km

総営業キロ 152.0 km

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 21 弾目として、元信越本線や上越線に接続する、群馬県・新潟県・長野県を走る、吾妻線と飯山線の旅（総営業キロ 152.0 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 35 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

(2019 年 4 月～2023 年 9 月で踏破)

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「樫原勉文庫拡充」にて、次のPDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第11編（日本横断歩き鉄の旅）

高崎線・上越線・吾妻線



2021年2月7日 樫原 勉

第31編（日本横断歩き鉄の旅）

上越線（後編） 飯山線



2023年10月1日 歩く鉄道作家 樫原 勉



ホテルたつみ泊 (0279-22-2443)

○4月28日(日) 晴れ

渋川 (7:53) → 川原湯温泉 (10:13)

川原湯温泉～岩島～矢倉～郷原～群馬原町～中之条～市城～小野上温泉～小野上 (25.1 km)

小野上 (17:20) → 高崎 (18:02)

たにがわ Max66 号 (臨時) 高崎 (18:33) → 大宮 (18:53)

第2節 1日目：4月27日(土)：大前～川原湯温泉 晴れ

大前(10:28)～万座・鹿沢口(11:35)～袋倉(?)～羽根尾(13:46)～群馬大津(14:31)～長野原草津口(15:36)～川原湯温泉(17:02)

サラリーマン人生で有給休暇を取らずに、4月27日(土)から5月6日(月)までの10連休に出会う。その休みの中で、吾妻線の踏破の旅に挑戦する。天気予報は神奈川・東京は雨マークであったが、群馬県はほぼ曇り・晴れマークであったので、もしかすると晴れのもとでウォーキングができるのではないかと、密かに思いながら、吾妻線の大前駅に向かう。折りたたみ傘に加え、ビニール傘を持参して臨む。家内に南林間まで送ってもらい、南林間6時6分、新宿7時3分と乗り継いで、大宮まで向かう。大宮駅で待ち時間を利用し、吾妻線の大前駅から渋川駅までの駅舎名と駅間隔の営業キロを記載しようとしたところ、コピーの鮮明度が悪く、換算キロ(60.8km)は分かるが、営業キロ(55.3km)は不鮮明。しかたなく、換算キロを転記する。

高崎線までの新幹線の中で、青空が見えてくる。高崎駅から吾妻線（3～4両編成）に乗り込む。ここ数日睡眠不足であったので、市城駅までうとうとしながら車中を過ごす。孫の成志と同じぐらいの年恰好のグループと一緒に車両となる。長野原草津口でこのグループも含め、沢山の乗客が下車する。この駅以降は、同じ車両の中は数名となる。途中、踏破が難しいような袋倉駅を偶然にもデジカメに収める。この思いつきは大成功であった。



今回の旅の切符



とき 305号高崎駅

大前駅には10時38分に到着。今乗って来た車両は、新前橋行き（11時発）となる。駅前には何もないのにビックリする。駅備え付けのノートにメモする。これまで、宗谷線の問寒別駅などでメモしたのを思い出す。肌寒さを少し感じながら、駅前を種々のアングルで撮影し、駅前の桜が満開な万座・鹿沢口駅を目指す。10時56分、ソメイヨシノが満開の孀恋村役場前を通過。国道144号線を歩く。11時10分、立派な松の前を通過。11時13分。知られ桜前を通過。11時15分。長野原の道路表紙前を通過。11時35分、万座・鹿沢口駅に到着する。駅舎の中には鯉のぼりと五月人形が飾っていた。



袋倉駅（往路の車窓から撮影：未踏破の恐れも予期して）

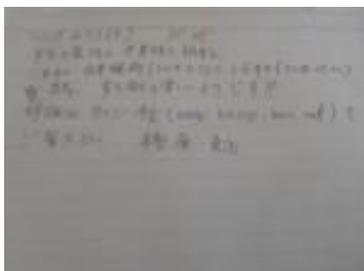
ここから袋倉駅を地元の人のお世話になるものの、iPhoneのナビがうまく作動できず未踏破となるが。11時49分、地元の方に教えてもらった交番から右折する。11時51分、

自画像をデジカメに収める。11時53分、鉄道を左手に確認する。11時56分、「天明の埋れ木」前を通過。ナビを頼りするが、上手く作動しない。誤ってとんでもない方向に進もうとしていた。勿論、鉄道はトンネルの中にあり、鉄道の進行方向は掌握できず。12時7分、小熊川（出会橋）を通過。この橋を20分漫遊して戻るという場面に遭遇する。犬を散歩している方に袋倉駅への道筋を聞く。「真っ直ぐに進めばいい」とのことであったが。「ここから4～5kmある」との情報で戸惑う。当初、真っ直ぐ進むべきか左手に進むべきかを迷った、直進は国道が見えたので国道に合流すると思ったのが大失敗であった。2度目のチャレンジでこの判断が誤りであることが判明。吾妻川を挟んで並走していた。12時36分、袋倉の地名をゲット。沿線にはソメイヨシノが満開を迎えていた。



車窓からの万座・鹿沢口駅界限

大前駅



大前駅のメモ帳に投稿

大前駅

孺恋村役場のソメイヨシノ



万座・鹿沢口駅

吾妻川

袋倉駅への路

12時40分、前方に陸橋を走る電車をデジカメに収める。12時40分、左手に鉄道あり。12時42分、こやど川橋を渡る。12時49分、マキノ一杯ある倉庫前を通過。12時52分、蔵川城址跡標識前を通過。12時53分、袋倉駅界限と思われる地点を通過。12時53分、民家の軒先で鯉のぼりと対面。12時56分、鉄道下を潜り、鉄道の左側となる。13時11分、手すりが錆びた橋を渡る。13時13分、再度頭上に鉄道が見えて来る。ナビを確認する。ここで自分が袋倉駅を通り過ぎていることに気付く。引き返そうという元気がせず。引き返しても袋倉駅を踏破できる確信がなかったからだ。肥薩おれんじ鉄道で「袋駅」を未踏破になったのを思い出した。袋が付く駅で2度目の失敗となる。諦めて、羽根尾駅を目指す。



袋倉の地名

袋倉駅界限？

羽根尾駅

13時32分、長野原町に入る。その先に18歩ある赤川（今宮橋）があった、13時46分、羽根尾駅に到着。14時4分、遅沢橋（遅沢川）を渡る。14時6分、長野原から1km地点（国道145号線）に到達。14時30分、キジをデジカメに捉える。デジカメで種々のアングルから撮影しても逃げないのにビックリ。少し引き返し、群馬大津駅には14時31分到着。



野生のキジ、群馬大津駅、長野原草津口への路

この駅舎のホームからトンネルが見えた。吾妻川に沿って歩く。14時42分、渋川46km、中之条25kmの道路標識前を通過。14時57分、JR線を横切り左手となる。ここから道路は高台と進行し、長野原草津口駅から大きく離れる。リカバリーに右往左往するが住人は見

当たらず。また、慣れないナビも上手く作動せず。しかし、高台を下りないと長野原草津口には行けないと考え、下りの路を探し、鉄道が走る位置まで山道を必死に下る。山道を下って、駅がどちらの方向か分からず。何とか戻った先に駅舎らしき風景が目に入ったので引き返す。1 km位は引き返したかもしれない。15時31分、上野からの特急車両をデジカメに収める。その先に長野原草津口駅（15時36分）があった。



長野原草津口駅

駅前には広場があったのみで、閑散とした駅の風景であった。タクシーが何台か留まっていた。駅前に面して長野原駅前大橋があった。少し行った先に長野めがね橋（258歩）があった。下には景観な吾妻川があった。国道145号を歩く。



長野原めがね橋、道の駅八ツ場ふるさと館界隈の模型図、不動大橋から川原湯温泉駅への風景

16時13分、見事なコントラストのサクラの前を通過。16時16分、吾妻川を渡る。河原では2台のシャベルカーがあった。16時22分、道の駅八ツ場ふるさと館がある。トイレ休憩を兼ね立ち寄り。ここで、念のために、川原湯温泉駅を聞く。親切にも模型のところまで案内頂き。川原湯温泉駅を教えて頂く。ここから不動大橋を渡り、左折し2 km位先にあるとのことであった。不動大橋から吾妻川の景観をながめながら、案内板に記載した駅方向を確認する。

17時2分、川原湯温泉駅に到着する。次の上りの電車は、17時55分であった。ここで

50分の待ち時間が生じる。次の駅までは、6.5 kmもあるし、山道であるし、ダイヤも心配。それ故、本日はこの駅で打ち止めとする。17時55分の電車で渋川駅を目指す。運賃は670円要する。ホテルたつの（307号：8階建て）には19時15分到着。ホテルで本日の食事する場所を聞いて忠次へ。本日の営業キロは、18.3 km、万歩計は37,645歩だった。



川原湯温泉駅（17時55分までダイヤ50分待ちとなる） 居酒屋”忠次”

<本日の感想>

2019年4月27日（土）、10連休の初日、吾妻線の大前駅から川原湯温泉駅に挑戦する。当初は一駅先の岩島駅を計画していたが、川原湯温泉駅から岩島駅まで6.5 kmあること、またこの区間は山道であることから安全を考慮し、川原湯温泉駅止まりとする。翌日の道筋を見て英断であったと確信する。吾妻線の大前から岩島辺りにかけては、トンネルが多々続き、鉄道が山に隠れて見えず、鉄道案内人である”線路”や”電柱”が威力を発揮しない道筋であった。

今回の旅は、初めて概略の地図を持参せず、 아이폰によるナビを頼りに歩くことを試みる。しかし、ナビがうまく作動せず、袋倉駅への道筋は1 km位一周して戻る場面（出会橋から出会橋へ）にも遭遇する。しかも、地元の人にもお世話になりながら、袋倉駅は未踏破となった。数日前、インターネットで勉強していたが、効果が発揮できなかった。誠に残念。

しかし、鉄道つたい歩きの路に迷うという醍醐味を満喫できた。また、ソメイヨシノを軸とする様々な花、雄大な山々や吾妻川の景観、温泉が随所に登場する看板、そして民家の庭先にある鯉のぼりは美しい日本を肌身で味わうことができた。加えて、旅の楽しみの一つである地酒を飲む会では、忠次という居酒屋で母ちゃん料理を楽しみながら、一日の疲れを癒すことができる。加えて、五能線の五所川原からやって来たという方と知り合い、カラオケを楽しむ機会を得、感謝また感謝の一日を送ることができた。旅はいいものだ！！

第3節 2日目：4月28日（日）：川原湯温泉～小野上 晴れ

川原湯温泉(8:43)～岩島(10:41)～矢倉(11:28)～郷原(12:00)～群馬原町(13:21)～中之条(14:27)～市城(15:33)～小野上温泉(16:26)～小野上(16:58)



川原湯温泉駅

川原湯温泉

2019年4月28日（日）、好天の中、川原湯温泉から小野上までの営業キロ 25.1 kmに挑戦する。昨日は疲れで、渋川駅から市城駅まで居眠りの状態であったため、その区間の道筋の状況は残念ながら掌握できず。本日改めて観察すると、渋川～小野上にかけて、山間が続くため、大前から長野原草津口と同様、トンネルまたトンネルで相当踏破に負荷を要すると推察された。それ故、早めに終えることが望ましいと考え、小野上駅で打ち止めとする段取りで臨むことにした。結果は昨日の同様、英断だった。

本日の道筋は、川原湯温泉駅から岩島駅にかけ、川原湯温泉トンネルと吾妻峡トンネルがあり、鉄道が見えない分難儀したが、iPhoneのナビを上手く活用し対処する。岩島から小野上までは、概ね鉄道が見えたため、私の自慢の鉄道つたい歩きで対応することができた。昨日に比べ、路に迷うことなく、スムーズに歩くことができる。雪を被った谷川岳を前方に見ながら、鯉のぼり、吾妻川の景観、温泉の看板、咲き乱れる花などを見ながら一日を楽しむことができる。加えて、少し遅めとなったが、群馬原町駅手前の手打ち蕎麦屋”いな穂”でランチタイムをとることができる。小野上駅には17時前に到着できる。

5時半頃目が覚め、5階にある大浴場で汗を流す。大浴場には誰も姿が見えなかった。昨夜は、パスターを楽しむ会の若者グループと大浴場の後雑談し部屋もあったが、今朝は誰もいなかった。準備をして、7時20分頃ホテルをチェックアウトし、昨日立ち寄った居酒屋

屋“忠次”をデジカメに収めて。渋川駅に向かう。駅で本日歩く可能性がある川原湯温泉駅から渋川駅までの営業キロを時刻表を見て転記する。空き時間を利用し、駅舎のポスターを転記。4つの温泉があるのを学習する。加えて、上野から渋川、中之条、長野原草津口には特急でも行けることを。

渋川駅・・・伊香保温泉
中之条駅・・・四万温泉
長野原草津口駅・・・草津温泉
万座・鹿沢口駅・・・万座温泉

渋川駅7時53分の電車で川原湯温泉駅（8時43分着）を目指す。金島駅と中之条駅で上りの電車が離合する。渋川から小野上まではほぼ鉄道がトンネルの中で、本日の歩きは小野上駅止まりになるであろうと思ひこむ。群馬原町駅で数年前大河ドラマ“真田丸”で放映された岩櫃城が登場する旗を目する。8時43分、川原湯温泉駅には駅員がいた。切符を手渡し。駅前を種々のアングルから撮影し、岩島駅を目指す。吾妻線は海にも面していないのに、島が付く駅舎が多い。不思議な感じがしたので、昨夜、忠次の女将さんに尋ねたところ、吾妻川からできた島とのことであった。8時57分、川原湯神社前を通過。8時45分、川原湯温泉トンネル（337.5m:540歩）前に到達。9時11分、川原湯温泉があった。9時11分、昭和39年代テレビで放映された細腕繁盛記に登場する名称と同じ名称の山水館があった。9時21分、吾妻峡トンネル（1,769.7m:2,793歩）前に到達。このトンネルを出た時の温度は8℃であった。昨日は7℃であった。しかし、風がない分温かく感じた。



川原湯温泉トンネル、トンネルから出た吾妻線、吾妻川の景観

県道 375 号（林岩下線：東吾妻町三島）を歩く。10 時 8 分、左手にトンネルを出たばかりの状況で鉄橋が見えて来る。道路の下には鉄道があった。この限界で交通違反を取り締まるパトカーを目にする。中央本線の塩尻峠を思い出した。10 時 17 分、93 歩ある大沢橋（大沢川）を渡る。10 時 30 分、チューリップを目にする。10 時 32 分、細谷（ほそがや）げんき橋を通過。ここから今朝車窓から見えた鉄柱があった。数人の観光客の姿があった。駅が近いことを察知する。210 歩ある岩島大橋を渡る。ここからの吾妻川の景観は印象に残るものがあった、橋を渡り坂を上った先に岩島駅（10 時 41 分）があった。川原湯温泉駅から岩島駅は印象に残る道筋だった。日没していたら、素晴らしい風景を堪能できないのに加え、岩島駅の未踏破もあり得たと察知。そういう意味で昨日はいい英断であったと自問自答する。



岩島駅

矢倉駅（穴熊駅がふさわしいような気もした）

10 時 40 分、沼田 35 km、渋川 32 km、中之条 11 km の看板を目にする。国道 145 号線を歩く。10 時 58 分、花が見頃な花壇前を通過。11 時 1 分、自画像をデジカメに収める。11 時 5 分、太陽電気発電所前を通過。11 時 5 分、福田屋旅館前を通過、それにしても吾妻線には温泉宿が多いのに驚く。11 時 8 分、岩島中学校前を通過。この辺りのサクラは、昨日と好対照で 7 分散位のサクラ前線であった。11 時 10 分、下り特急電車が通過して行く。10 時 23 分、矢倉駅の看板を見つけ、坂道を上り矢倉駅を目指す。穴熊のような先に矢倉駅（11 時 28 分）があった。山に面してあった。



合格祝の先に鯉のぼり、神代杉、郷原駅（12 時のサイレン）

11時35分、鯉のぼりが見える手前に新学期向けの掲示板（前高前女、高高高女・・・）があった。10時38分、鳥頭神社、神代杉前を通過。11時47分、景観な吾妻川をデジカメに収める。11時51分、浦野農園前を通過。11時58分、岩櫃城跡（6km先）を記した看板前を通過。12時のサイレンを聞く瞬間、郷原駅に到着する。12時5分、岩櫃山登山口前を通過。その先で薬師温泉旅館の看板前を通過。12時11分、浦野石材の先に雪化粧の谷川岳を目にする。その先に唐沢バス停（関越交通）があった。12時20分、霧沢橋で鉄道下を滝のように流れ落ちる水路があった。12時37分、長野原から23km地点に到達。12時40分、面白いキャラクター前（埴輪のような太陽の塔のような）を通過。12時50分、いな穂に立ち寄り手打ちそばで一服する。500回目のウォーキングとして思い出に刻むために。最近は昼食を摂らずにウォーキングに臨んでいる。ランチタイムに食事処が登場しない、先を急ぐ、夜の酒を楽しむなどなどから。



遠くに雪化粧の谷川岳

いな穂

20分位一休みし、群馬原町駅を目指す。13時13分、善道寺前通過。駅前賑やかな群馬原町駅には13時21分到着。



群馬原町駅、チューリップなど、線路沿いの先には谷川岳

原町赤十字病院がある線路に沿って歩く。雪化粧の谷川岳が線路の向こうにあった。この山が分からず、通行人の若い女性の方に教えて頂く。13時34分、日赤裏踏切を横切り、鉄道の左側となる。国道145号線に合流する。13時55分、四万川を横切る。右手にはグリーン鉄橋があった、13時57分、中之条町に入る。入るや否や真田忍者の里とあった。14

時 11 分、清見寺前を通過。掲示に「忍ぶ心、励む心、慈悲の心で素直に生きる」とあった。感動また感動。14 時 15 分、中之条町字長岡を通過。14 時 22 分中之条駅の看板がある。その先に中之条駅（14 時 27 分）あった。駅前、駅舎の中にも花で一杯の駅であった。これまでの吾妻線の立ち寄り駅舎で最も活気がある駅前であった。14 時 42 分、伊勢田下交差点で沼田（直進方向）という地名に別れを告げる。右折し国道 353 号線に入る。14 時 45 分、桃瀬川辺りで前橋 32 km。渋川 19 km の道路標識と対面する。14 時 55 分、中之条婦人会前花壇を通過。14 時 58 分、132 歩ある名久田川（松見橋）を渡る。15 時 33 分、少し通り過ぎて市城（いちしろ）駅に到着する。ナビの操作が効果を発揮する。15 時 40 分、ピンクの花壇がある庭木を手入れした道筋を歩く。15 時 47 分、鯉のぼりが勢いよく泳ぐ民家前を通過。



中之条駅（吾妻線で随一賑やかな駅？、中之条町は真田忍者の里）

16 時 5 分、中之条町から渋川市に入る。この境界は国道 353 号線に沿って吾妻川が続いており、その間に鉄道が走っていた。16 時 8 分、鯉のぼりが泳ぐ先には金網で保護された岩が続く。危険また危険を強く感じるエリアだった。16 時 22 分、村上塩川踏切を横切り、鉄道の右側となる。この踏切の数分前に小野上温泉の看板を目にするが、直進する。しかし、駅のホームで沢山の乗客が待っていた小野上温泉駅に繋がる連絡口なく、300m 位引き返す事態となったが。結果的に小野上温泉駅には 16 時 26 分に到着。



小野上温泉

小野上温泉駅

暫くすると、16時28分発の高崎行きがやって来る。駅前には小野上温泉センターがあった。16時35分、渋川まで14km地点に到達。16時38分、渋川市村上を通過、16時42分、35歩ある芙蓉橋（鑷沢川：けぬきさわ）を渡る。16時51分、時代屋という看板前を通過。この名前は遠い昔、夏目雅子が演じた映画で強く印象に残っている。16時58分、駅前に桜がある小野上駅に到着。17時20分の電車で高崎駅へ。本日の営業キロは25.1km、自宅到着は21時2分だった。万歩計は52,321歩だった。

今日も「人生とは不思議なものです」を感じる一日となった。それは、偶然にも平成末で記念すべき**500回のウォーキング**が樹立できたからだ。帰りは新幹線の中で、人生ささやかなその喜びを噛みしめ祝杯をあげながら家路に向かう。



小野上駅（桜で花道を飾る）

※



新幹線の中で祝杯

第4節 3日目：12月15日（日）：小野上～渋川 晴れ

小野上(11:25)～祖母島（うばしま、12:55）～金島’ 13:40)～渋川（15:15)



本日の往復切符、高崎駅（10時44分の電車で小野上駅に移動）

2019年12月15日（日）晴れ、群馬県を走る吾妻線の小野上～祖母島（うばしま）～金島～渋川（営業キロ11.9km）に挑戦する。無事踏破ができ、大前～渋川までの営業キロ55.3kmが繋がる。感動また感動。令和元年の締めウォーキングである。只今現在、断線した鉄道区間は次の通り。

- ① 吾妻線（小野上～渋川）
- ② 奥羽本線（福島～米沢）
- ③ 北陸本線（糸魚川～石動）
- ④ 山陰本線（胡麻～福知山）
- ⑤ 福知山線（柏原～尼崎）
- ⑥ 関西本線（亀山～柘植）
- ⑦ 土讃線（阿波池田～多度津）
- ⑧ 近鉄線（大和西大寺～石切）

本日の歩きで、8断線区間のうち①については解消できた。



小野上駅、吾妻川

大前から小野上までは2019年4月に歩いた。先日の台風の影響で大前～長野原草津口（13.3 km）の鉄道は現在不通で、バスでの切り替え区間となっていた。吾妻線を踏破して感じたことは次の3点。

- ① この鉄道は概ね吾妻川に沿って走っていた。
- ② 川沿いにも関わらず、岩島・祖母島・金島と島がつく駅舎が3つ存在した。磐越西線の翁島駅や宗谷本線の箴島駅（おさしま）を思い出した。川の土砂によって駅境界が生成されたと推察。
- ③ 沿線には草津温泉や伊香保温泉など多数の温泉地帯があった。

昨日、自治会の忘年会であったが、次のダイヤで臨む。中央林間までは家内に送ってもらう。本日は日帰りのため、身軽な格好で臨むことができる。本日の歩きに固執した理由は、本年も何とか500 km超えを達成したかった。

中央林間 7:57→新宿 8:38

新宿 8:50 → 大宮 9:20（高崎 10:42）

あさま 605号 大宮 9:29 → 高崎 9:52

高崎 10:42 → 小野上 11:25

新宿駅で渡瀬明男さん（鹿児島県出身、東小金井駅境界在住）という方と知り合う。新宿から高崎まで約1時間、ウォーキングを中心とする話で盛り上がる。渡瀬さんは、高崎から草津31号（10時20分発）で長原草津口駅に向かう。

2両編のガラガラの車両で小野上駅に向かう。11時25分、小野上駅に到着するや否や、事前勉強していない道筋で臨む。小野上駅から祖母島駅まで線路と国道353号線がほぼ並走していたからである。11時28分、祖母島駅に向けてスタート。

11時35分、吾妻川を右手にして歩く。左手には吾妻線が走っていた。温和な師走の長閑なコンディションの中での歩きとなった。11時46分、鉄道が直ぐ左手にあった。11時49分、特急と対面する。11時52分、村上踏切を横切り鉄道の右側となる。



村上踏切、甲里バス停



特急草津、新潟の地酒を陳列



渋川市立小野上小学校、鉄道トンネルへ

11時53分、新潟の地酒を扱う店の前を通過。11時57分、甲里（かぶり）バス停（関越交通）を通過。右手には、渋川市立小野上小学校の校舎があった。11時58分、田園の中で太陽発電前を通過。12時2分、足下には吾妻線と吾妻川があった。JR線を跨がり、鉄道の右側となる。12時13分、上小野子バス停前を通過。12時17分、道の駅お

のこに到着。この道の駅と道路を挟んだ手打うどん・そば「田吾作」に立ち寄り、かき揚げ蕎麦を頂く。



手打うどん・そば田吾作、鉄道に沿った歩道橋

実を言うと、不安の状況でここまでやって来た。その不安とは、鉄道が吾妻線を渡るのに応じ、歩道があるか否かである。ネットの地図では歩道までの細かな状況は表示がない。「万一の場合にはパス（祖母島駅の未踏破）もやむを得ないだろう」と腹を括っていた。それが、この店の店員さんに聞いたところ、「歩道は鉄道に沿ってあります」を聞きホッとす。いいタイミングでの食事であった。12時37分、この店を後にする。12時40分、歩道前に到着。ワクワクドキドキする。12時43分、万歩計で247歩ある鉄道に沿った歩道橋を渡る。じっくり堪能しながら歩いたため、5分要する。



手打うどん・そば田吾作、歩道橋への入口

歩道橋から種々のアングルで撮影も考えたが、揺れを多少感じたため、身の安全を考えパスする。歩道橋で特急電車が私を追い越して行く。歩道橋を渡ると、鉄道に沿った路筋が続いていた。12時55分、やっと祖母島駅に到着。乗客が2名駅舎にいた。12時

59分、特急電車と対面。それにしても吾妻線は温泉地を通る路線のためか、「特急電車が頻繁にあるなあ」と痛感。



祖母島駅

山道を歩いて、金島駅に向かう。13時10分、山道を歩き35号線にある祖母島立場前バス停前に到達。ここからは幹線道路を歩く。13時15分。上の山入口バス停前を通過。13時16分、広大な太陽発電設備前を通過。13時22分、富黄の湯前を通過。13時28分、上陸新幹線下を潜る。丁度その下に北渋川駅のバス停があった。13時33分、中川島バス停前を通過。13時40分、金島駅に到着。



金島駅への道筋、金島駅



登沢川、高台からの渋川市内

この駅は 35 号線から 70m 位先にあった。朝の車掌から見た風景のままであった。駅前には川島の由来の石像があった。13 時 45 分、前方に特急が通過して行く。13 時 47 分、下中島バス停前を通過。13 時 58 分、登沢川を通過。14 時 4 分、高台にある南牧のバス停から渋川市内が見えて来る。14 時 5 分、道路下を潜る。14 時 28 分、前原バス停前を通過。14 時 33 分。市営住宅入口バス停前を通過。14 時 44 分、渋川高校、渋川駅バス停前を通過。道なり沿って歩く。15 時 5 分、5 つ辻に到達。渋川駅の道筋（渋川駅前通り）を歩く。渋川駅方面の道筋には母と子供の像があった。15 時 15 分、渋川駅に到着。駅前には夜になるとイルミネーションとなる設備があった。渋川 15 時 31 分の電車で高崎に向かう。高崎には 15 時 57 分到着。高崎からは「とき 370 号」（たにがわ 78 号）（16 時 5 分発）で大宮駅（16 時 30 分着）へ。25 分と所要時間は短かったが、祝杯をあげる。自宅到着は 18 時 50 分。本日の営業キロは 11.9 km、万歩計は 29,691 歩であった。



前原バス停、渋川市内



5つ辻の道路標識、子供と母の像

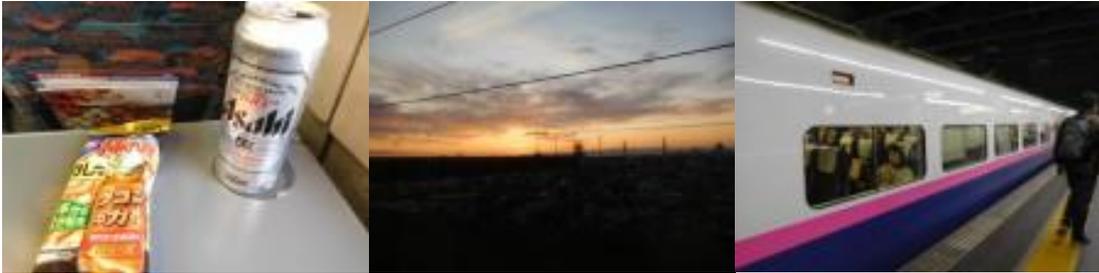
<本日の感想>

本日もインターネットで事前にウォーキングの道筋を調べ打ち出して臨む。しかし、小野上から祖母島まではネットで打ち出した155号線・35号線ではなく、国道353号線に急遽切り替えて臨む。肉眼で見た限り、この国道が概ね鉄道に沿った路筋であると判断したからだ。それ故、当初の道筋に比べ5割位近道ができた。しかし、鉄道が吾妻川越え界隈の歩道橋がネットの地図では記載がない。困っていたところ、昼食で立ち寄った”手打うどん・そば田吾作”の職員さんに聞いて助け舟を得られる。胸をなで下ろす。「車道はありませんが、歩道は鉄道に沿ってあります」と。いいタイミングで昼食をとったものだ。お蔭で幅80cm位の吊り橋のような歩道を渡った先に祖母島駅があった。因みに川幅は私の万歩計で247歩だった。祖母島から渋川までは、順調に歩くことができる。当初想定した時間（4時間半）より1時間位早く歩くことができる。15時15分、渋川駅に到着。感謝感激。

これで、通算営業キロは1万545km（所要日数520日）となった。同時に2019年暦年のウォーキング営業距離は502kmとなり、1年の目標である500kmを達成でき嬉しい限り。



渋川駅



富士山を見ながら新幹線の中で祝杯をあげる

加えて、新宿駅で渡瀬さん（鹿児島県出身：草津温泉日帰りの旅）という方と知り合い、新宿から高崎まで新幹線（大宮～高崎）を含めた道中、色々世間話をさせて頂く。鹿児島中央駅手前の広木駅踏破の際の苦労談をお話したところ共感を得られ感動また感動。一気に距離が縮まった。”旅はいいものである”そして”世間は狭い”と感じる一日でもあった。天や神に感謝あるのみ。



朝の高崎駅（渡瀬さんと別れを惜しむ）